



震災と女性

被災女性のニーズと支援の課題を考える

東日本大震災の被害を受けた人々の状況は、テレビや新聞などのメディアを通じて、連日報道されていますが、女性や高齢者、障害者、外国人など、いわゆる「災害弱者」の問題はあまり継続的に紹介されていません。しかし、災害時に大きな困難に直面する可能性が高い「災害弱者」の問題は、防災の観点からも考えておく必要があるでしょう。では、「災害弱者」の一部である女性には被災時にどのようなニーズがあり、支援においてどのような課題が生じているのでしょうか。これらについて理解を深め、震災と女性について考えるために、「共生社会東日本地震被災者救援・支援の会」と「NPO法人女性と仕事研究所」の協力を受け、下記のようにシンポジウムを企画しました。ゲストの宗片さんは、2008年、仙台市内の女性を対象に「災害時における女性のニーズ調査」を実施し、「女性の視点からみる防災・災害復興対策に関する提言」をまとめ、各自治体や地域団体において報告会やワークショップを実施、今回の震災の直後には、中央防災会議「地方都市における地震防災のあり方に関する専門調査会」委員に就任された方です。東日本大震災に伴い、「せんとくネット」を立ち上げ、被災女性のニーズを掘り起こし支援活動を行うとともに、避難所・仮設住宅の訪問を行い、被災女性の現状把握に努めるとともに、「被災女性のための語り合いサロン」を開催しています。

お忙しいとは思いますが、ぜひ、ご参加ください。なお、このシンポジウムは、大阪市立大学大学院創造都市研究科都市共生社会研究分野の入試広報の一環として実施するため、プログラム終了後、簡単な入試説明会を行わせていただきます。

★日時

2011年7月25日（月）午後6時半～9時

★場所

大阪市立大学文化交流センター
大阪駅前第二ビル6階（JR北新地駅真上）

★スピーカー

宗片 恵美子

NPO法人イコールネット仙台・代表理事
中央防災会議「地方都市等における地震防災のあり方に関する専門調査会」委員



★コーディネーター

柏木 宏

大阪市立大学大学院 教授

参加は無料、予約も不要。
どなたでもご参加いただけます。

お問い合わせ：

E-mail: info@co-existing.com



都市共生社会研究分野とは？

大阪市立大学大学院創造都市研究科は、2003年4月に大阪の梅田で開設された社会人向けの大学院です。都市共生社会研究分野には、「NPOをツールに共生社会の実現を目指す実践家」が集っています。よりよい人間社会づくりのために日々実践的な活動を行っている市民、NPO、企業、行政の方々のネットワークを形成して、社会に貢献するとともに、実践的な活動の効果や影響、手法などについて教育研究を展開することを目指しています。

詳しくは、以下のサイトをご覧ください。

▼ <http://www.co-existing.com> ▲